

アンテック

## 首都圏で備前焼リース 窯元活性化を後押しへ

陶芸機器販売の㈱アンテック（瀬戸内市邑久町豆田116-3、末石建二社長、資本金1000万円）は、首都圏で備前焼のリース事業を開始する。来年5月開設予定の東京営業所（東京都港区）に展示スペースを併設。若手作家から人間国宝の作品まで幅広く取り扱い、備前焼の再認識と窯元の活性化につなげていく。

備前焼は生け花や茶道、和食器などに使われているが、和食器の場合、四季の食材に合わせて使い分けるケースがほとんど。日本料理店では経

費増加を理由に、扱いづらいとの声も聞かれ、使用機会は減少傾向。高価なイメージも根強く、結果的に窯元の衰退を招いている。

このため、同社は窯元から直接作品を買い取り、東京営業所内に展示。来所者は自由に見物し、気に入った作品を借りるシステムを導入。数百枚単位から単品を1～2日間貸すなどの小口需要にも対応。展示スペースは約10㎡で、当面は作家約30人の作品を並べる。リース料は未定。

すでに都内で営業活動を展開しており、末石社長は「東京で作品を展示するのは陶芸家の夢。窯元にもビジネス感覚を取り入れ、活性化につなげれば」としている。

平成17年11月14日 Vision岡山